



出版クラブ会報 No.613

# 「未来に残したい忘れたくない本」展

## 開催にあたって

クラブライブラリー委員長 下中 美都

(しもなか・みと)



ようやく鈴虫が泣き始める夜の秋、涼風の訪れに救われる想いがしますね。

出版クラブビルのエントランス3階、クラブライブラリーでは、新企画「未来に残したい忘れたくない本」展を9月12日(月)から10月21日(金)まで開催します。この展示企画は2021年夏に開催した、「わたしたちが気づいたこと 忘れたくないこと」展のバージョン2になります。

昨年の展示のテーマは「コロナ禍の読書体験」です。あの緊急事態にすべてが止められ、せわしなさや雑音が消え、ゆっくりにした時の流れの中で過ごしたひとりの時間。ていねいなくらし方に目を向けたり、読めなかった本を読み返し、生きることと死ぬことをわが事として考えました。「そもそも生きること

って何だっけ?」という問いを、「読む、食べる、歩く、想う、遊ぶ、死ぬ」という6つの動詞に託して、本を選び展示しました。本を、「日常のくらしのツール」として見せようという新しい試みでもありました。展示を見た人に「あなたの忘れたくない一冊について原稿をよせてください」とよびかけ、あわよくば原稿が30本集まったから、バージョン2展を開催して一冊の本を作ろう! 本のタイトルは「忘れたくない本のほん」、装丁はクラブライブラリ

ーの展示デザインを担当する重実生哉さんをお願いして、きれいな本にしたいね! とライブラリー委員会メンバーで夢を膨らませていました。さらに、本ができた晩には全国の100の図書館に送ろうというアイデアも。これは、講談社の野間省伸さんのお力をお借りして、「キックスターター」サイトでクラウドファンディングをよびかけ、送付費用を集めました。ご寄付いただいた方々に心よりの感謝を申し上げます。この一連の企画の発案者は委

- ▽「未来に残したい忘れたくない本」展開催にあたって……下中 美都 一〇三
- ▽「追悼」 田中健五さんのこと……岡崎 満義 四
- ▽大竹深夫さんのこと……鈴木 宣幸 五
- ▽出版平和堂 第54回 出版功労者顕彰会 新顕彰者四氏が決まる……六
- ▽日本出版クラブ 理事会・評議員会開催
- ▽新しい役員と委員の顔ぶれ決まる……八
- ▽「出版歳時記」枯れ木に花が咲く、か……八

員の神保純子さんです。それを幅允孝さんが「コロナの時代の僕ら」(パオロ・ジョルダノ著)のあとがきになぞらえて展開しよう、2年前の秋にワインを飲みながら話したのが始まりでした。でも「来年夏の展示の頃には、みんなコロナのことを忘れてるよね?」と聞いていたのが、よもや今夏に東京のコロナ感染が3万人超になるとは思いもよりませんでした。今秋のバージョン2「忘れたくない本のほん」展は、出来上がった小さな水色の本を会場一面に並べて、30人の「忘れたくない本」とそのキーワードをハッシュタグで見せます。本の構成と展示は、クラブライブラリー創設以来「小さな本の展覧会」のダイレクションをしている幅允孝さんによるものです。30人30様の「本と私」についての文章に共通するのは、特別なものを扱うような言葉の感触です。少しかだけ紹介します。

「若いときに読んで、数回の引越しても手放すことがなかった本……10代の時に一気に読んで、それから30年が過ぎ、読んだ中身は同じ、変わったのは読み手のほうです。相当長いこと開けずにいた引き出しの中身を見たような気がしました。見覚えのある、そして愛用していた品々がそこにあります……コロナの時代の中で、偶然にも再会することができました」(市原真樹さん)

「(どんな人にも)……帰るところはあるのではないでしょう。それは心の中にあつて……子どものころに親やまわりの人たちが、さらに本などから与えられて残っている言葉であり、そこにつながる記憶です。本を読んでいると、時々この心の中の言葉や記憶の世界に戻っていて、結局のところ人生はそこに向かっていっているような気がしています」(相賀昌宏さん)

いかに人が本に助けられ、人生を知り、希望のありかを見つけるか。そして本を閉じるとき、つましい何かを受け取ったような本になったと思います。出版クラブも神保町に移ってまる4年になります。クラブライブラリーは出版社が未来に残したい本、世界を知る本、世界16か国の古い百科事典から世界の絵本まで7000冊強が並ぶ小さな図書館で、天井から「本の気」がふりそそいでくる空間です。秋のはじめのひととき、本と人との関係を改めて知る展覧会にぜひ目をとめていただければ嬉しいです。

(平凡社社長)

『忘れたくない本のほん』で取り上げられた書籍  
(掲載順)

- ・『どうして僕はこんなところに』ブルース・チャトウィ  
ン 著(角川書店)
- ・『逆光』トマス・ピンチョン 著(新潮社)
- ・『忘れられた日本人』宮本常一 著(岩波文庫)
- ・『独逸日記/小倉日記』森鷗外 著(森鷗外全集13 ちく  
ま文庫)
- ・『辺境・近境』村上春樹 著(新潮文庫)
- ・『風の歌』アタウルパ・ユパンキ 著/ソソコ・マー  
ジュ 訳(現代ギター社)
- ・『静かなる尾根歩き』松浦隆康 著(新ハイキング社)
- ・『パスタの基本』ラ・ペットラ 落合務 著(講談社)
- ・『ぐりとぐら』なかがわりえこ 作/おおむらゆりこ 絵  
(福音館書店)
- ・『愛されすぎたぬいぐるみたち』マーク・ニクソン 写  
真・文(オークラ出版)
- ・『THIS ONE SUMMER』マリコ・タマキ 作/ジリア  
ン・タマキ 画(岩波書店)
- ・『歯車』芥川龍之介 著(岩波文庫)
- ・『戦闘機パイロットの空戦哲学』服部省吾 著(光人社N  
F文庫)
- ・『パブロ・カザルス 喜びと悲しみ』アルバート・E・  
カーン 編/吉田秀和・郷司敬吾 訳(朝日選書)
- ・『カザルスとの対話』J・M・コレドール 著/佐藤良雄  
訳(白水社)
- ・『大地』パール・バック 著(新潮文庫)
- ・『イノック・アーデン』アルフレッド・テニスン 作(岩  
波文庫)
- ・『幸田文 しつけ帖』『幸田文 台所帖』『幸田文 きも  
の帖』『幸田文 季節の手帖』『幸田文 旅の手帖』『幸  
田文 どうぶつ帖』幸田文 著/青木玉 編(平凡社)
- ・『幸田文 老いの身じたく』幸田文 著/青木奈緒 編(平  
凡社)
- ・『風の歌を聴け』村上春樹 著(講談社文庫)
- ・乃里子3部作『言い寄る』『私的生活』『苺をつぶしなが  
ら』田辺聖子 著(講談社文庫)
- ・『檸檬先生』珠川こおり 著(講談社)
- ・『流浪の月』風良ゆう 著(創元文芸文庫)
- ・『Day to Day』講談社 編(講談社)
- ・『歎異抄をひらく』高森頭徹 著(1万年堂出版)
- ・『地獄の季節』ランポー 作/小林秀雄 訳(岩波文庫)
- ・『楽園のカンヴァス』『暗黒のゲルニカ』原田マハ 著(新  
潮文庫)
- ・『ゲッチョ先生と行く 沖縄自然探検』盛口満 著(岩波  
ジュニア新書)
- ・『拗ね者たらん』後藤正治 著(講談社文庫)
- ・『何がおかしい』佐藤愛子 著(中央公論新社)
- ・『寡黙なる巨人』多田富雄 著(集英社文庫)
- ・『新增補版 心の傷を癒すということ』安克昌 著(作品  
社)
- ・『文鳥・夢十夜』夏目漱石 著(新潮文庫)
- ・『戦中・戦後の暮らしの記録—君と、これから生まれてく  
る君へ』暮らしの手帖社 編(暮らしの手帖社)

## 『忘れたくない本のほん』の30篇(掲載順)

## ・タイトル(執筆者)

- ・どうして私はこんなところに(森田祐子)
- ・不都合な時代(井上明彦)
- ・宮本常一さんに倣って(岡崎満義)
- ・森鷗外『独逸日記』を読んで(原俊樹)
- ・旅について(Jumbo)
- ・〈風の歌〉を現代世界に(小野信也)
- ・コロナ禍下、もっとも頻繁に手に取った本(土井二郎)
- ・生きるために食べ、食べるために読む、なんてね(鬼頭  
淳一郎)
- ・大丈夫、大丈夫。(堅田真里)
- ・せまくて温かくて安心な世界(高島いづみ)
- ・忘れてしまう日々(三輪侑紀子)
- ・母からの旅だち(淡雪226)
- ・心の中の、帰るところ(相賀昌宏)
- ・薦めてくれてありがとう(山崎知利)
- ・準古典で読む「市民」のドラマ(田中洋子)
- ・枕もとの至福(下中美都)
- ・やあ、久しぶりです(市原真樹)
- ・人生はsweet & bitter(神保純子)
- ・日常を彩るもの(珠川こおり)
- ・本のある日々と本を売る日常(川俣めぐみ)
- ・あの春の日(風良ゆう)
- ・『歎異抄』に、1万通の愛読者カード(田中国広)
- ・一瞬の生、永遠の無 瞬時の今この本を!(山了吉)
- ・アートの力、本の力(成瀬雅人)
- ・「沖繩の海」と「本田靖春さん」は忘れられない、忘れ  
たくない(阿部薫)
- ・何故、心に残るのか(小山内征子)
- ・死から見えてくる生(今村正樹)
- ・危機の時だからこそ見えるものがある(喜入冬子)
- ・百年後の百合(上坂美穂)
- ・これが戦争なのだ(香川晃一・会田綾子)



※「忘れたくない本のほん」(四六判96ページ 一般財団法人日本出版クラブ刊)

※希望者には1冊1000円でお分けいたします。(問い合わせ先 一般財団法人日本出版クラブ事務局 TEL03-5577-1771)

PHOTO: 講談社写真部

文学と言葉>  
小さな本の展覧会 12

「未来に残したい忘れたくない本」展

あなたは未来にどの本を  
残しますか?

会期:2022年9月12日(月)~10月21日(金)

10:00~18:00(土日祝はお休みします) 入場無料

会場:出版クラブビル 3Fライブラリー(神保町)

# 追悼 田中健五さんのこと

## 岡崎 満義

(おかげさき・みつよし)

1960年(昭和35年)3月

10日、私は文藝春秋に初出社した。身分証明書ナンバーは「96」だから、社員100人余りの出版社だった。中でも田中健五、半藤一利、金子勝昭の3氏は「花の28年入社組」と言われ、ひととき華やかな存在だった。私はすぐ週刊文春編集部配属され、半藤、金子両先輩の「アシ」として取材に飛び回るようになった。半藤さんの原稿を書き上げる速さに驚いた。取材原稿を届けるとサツと目を通し、サラサラと原稿を仕上げ、凸版印刷に渡すとすぐ銀座にくりだすのが常だった。これがプロの仕事師というものかと思っ

た。週刊文春を1959年春に創刊するまで、毎年採用する社員は3人に決まっていた。「1人目、2人目は成績のいい者、3人目は成績はそれほど良くないが、ひよっとすると入社後に大化けしてとんでもない大物になるかもしれない」と聞いた。田中さんがそのうちのどれに当たったのかは知らない。週刊文春創刊以後は採用人数がふえ、私の年は8人が入社した。少し質

が落ちたかもしれない。

私は文藝春秋に入社して一番良かったと思うのは、佐佐木茂索社長と出会ったことだ。入社3年目に結婚した私は、2人で佐佐木邸に挨拶に行った。そのとき佐佐木社長はこんな話をし



第30回全出版人大会の大会委員長として挨拶をする田中健五さん(1991年5月9日、ホテルニューオータニにて)

てくれた。

「奥さん、なるべく早く年収分の貯金をしなさい。サラリーマンはいつ会社を辞めたくなるかもしれない。会社の方針と合わない、上司と喧嘩した、取材先でミスをした、会社の金を使いこんだ……どんな理由で会社を辞めたくなるか知れない。そのとき、年収分の貯えがあれば、新しい道をゆつくり探せる。自分を安売りすることなく、新

地を探せる。だからできるだけ早く年収分を貯金することだ」入社3年目の若造夫婦に、こんな滋味ある言葉をかけてくれた。佐佐木茂索社長に私は感激した。大学時代のゼミの田中美知太郎先生につづいて、佐佐木社長に会えた幸運を本当にありがたいことだと思った。

入社して6月に週刊文春に配属されるまで、いろいろな編集部原稿取りや出張校正を手伝った。仕事がないとき、机で本を読んでいると、池島信平専務がやってきて、「おいおい、昼間から本なんか読んでるんじゃないよ。本は家に帰って夜読めばいいじゃないか。さあ外に出るんだ。芝居でも映画でもみてるんだよ。いい映画がなければ、百貨店に行つて今流行しているものは何か、よく売れているものは何かを見てくればいいじゃないか」と私たちを外に追い出してくれた。社内にはそんな不思議な、大らかな、自由な雰囲気

が渦巻いていた。田中健五さんは出版部が長かったので、長くつきあうことはなかった。田中さんが月刊文藝春秋、週刊文春の編集長のポスト

トについたとき、私はデスク(副編集長)としてその下についた。窮屈なことは何もなく、自由にさせてくれた。田中さんは部員から企画のプランを引き出す名人だった。「編集者の財産はどれだけ作家やエッセイストを知っているかだから、できるだけ人に会う方がいい。君は辻堂に住んでいるんだから、会社に来る前に鎌倉文士に会つてきたら」とすすめてくれた。鎌倉には小林秀雄、大佛次郎、中村光夫、永井龍男、立原正秋……などの諸先生が住んでいたもので、朝ふらりと訪ねることが多かった。

小林秀雄さんは酒が入ると、作家であろうと編集者であろうと、泣くまで攻めたてる恐ろしい人、と言われていたが、私が訪ねるのは朝10時頃なので、そんな目にあつたことはない。富岡鉄斎からスポーツの話まで、何でもござれの話の広さで、まさに「私の大学」だった。立原正秋さんを訪ねると、朝から酒になつた。ビール、日本酒、最後はウイスキー。「日本酒を飲むと体がかゆくなつて、すねの毛をむしるんだ。ひと冬でつるつるになるんだが、3月の声を聞くと少しずつ産毛のような細い毛が生えてくるんだ」と着物

特集し、完売したことがある。立花隆さんと児玉隆也さんが執筆者だった。立花さんにはその後「日本共産党の研究」も書いてもらった。児玉さんは惜しいことに若くして亡くなつてしまった。田中健五さんはいい筆者を見つけた名人だったかもしれない。「田中角栄研究」その金脈と人脈」を特集したとき、田中さんは立花さんと呼んで相談した。立花さんは「土地転がしが田中角栄さんの金の成る木だから、どう土地転がしをしたか、登記簿を追跡すればいい」と言い、上智大学の学生を数人アルバイトで頼み、登記簿を調べてもらった。大成功だった。

第2次大戦のとき、駐ドイツ大使だった大島浩氏に原稿を頼んでもいつも断られていた。「君は辻堂に住んでいるんだから、茅ヶ崎住いの大島さんにダメモトで原稿を頼みに行つてみたら」と言ってくれたのも田中健五さんだった。大島氏の自宅を訪ねたが、やはり原稿は断られた。その代り、ドイツ大使時代のヒトラーの話は本当に面白かった。部屋の間にはヒトラーと大島氏が握手している写真が小机の上に立ててあった。社会学者の上野千鶴子さんの言葉に「金持ちより人持ちになれ」がある。田中さんのおかげで私は「人持ち」になれたような気がする。ありがたいことだった。

## 大竹深夫さんのこと



大竹深夫さん

## 鈴木 宣幸

(すずき・のぶゆき)

東北で起きたあの大震災からわずか5日後の2011年3月16日。当時の相賀昌宏・書協理事長、菊池明郎・書協副理事長、野間省伸・出版クラブ次期会長(同年6月9日就任)が、書協会議室に集まり、会議に出られなかった雑協の上野徹理事長にも賛同をいただき、(大震災)

出版対策本部の骨格が決まった。必然的に事務局のメンバーは、この三団体のトップたちの会社が担うことになった。

広報・総務部門と営業部門から1名ずつ。小学館2名、文藝春秋2名、講談社2名、それと筑摩書房1名。さらに集英社2名と光文社1名が加わった。このとき、講談社のふたりが大竹深夫さんと私というわけだ。深夫さんは販売部門の大ベテラン、私はその年の2月に広報室長になったばかり。業界横断的な人脈もほとんどないし、ましてや流通に関しては全くの素人。出版界全体を代表する組織で何ができるか不安しかなかった。「ノブちゃん、やれることからやっつけていこ」

書協での最初の事務方会議に

向かうタクシーのなかで、声がかげられた。まだ火を点けてないタバコを口に挟んでニコッと笑う、大竹深夫さんを知っている人にはわかる、あの表情だ。つづけて、

「ま、ゼンコウさん(佐藤晋孝氏・小学館)がいるし、たいていのことは大丈夫だよ」

これも無責任と誤解を招きそうだが、深夫さん的には「最後はオレも責任を持つ」という意味合いになる。

公式の記録がある。「大震災」出版対策本部活動の記録」として、ネット上にアップされており、2011年から2021年までの行動が網羅されている(<https://www.jpba.or.jp/pdf/documents/daisinsai-rep.pdf>)。これを読むと、初動がいかに大切かがわかる。最初期の半年で、ほぼすべてが始まっている。まずは避難所への図書寄贈そして復興基金の設立。こともたちへの図書カードプレゼント。

最初の会議。医薬品や食料、日用品の提供が公的機関やボランティア団体の被災地支援の中心だったが、出版界でできるこ

と、当たり前だがそれは読書環境整備だ、ということになった。まずは現物、出版社に図書の提供を募り、集まった書籍は6月時点で120社から2015点、18万4000冊あまりとなった。膨大な冊数の集積基地として、当時板橋にあった栗田出版販売の倉庫内に設けられたのは、栗田のご厚意と、深夫さんらの尽力に他ならない。各版元、お膝元の栗田の社員の皆さんもボランティアとして書籍整理に集まってくれた。避難所それぞれ

のニーズを勘案しながら、7月までに寄贈先に送られることとなった。

また、公共図書館・学校図書館の被害も甚大だった。新たな書籍購入資金の提供は図書カードとし、地元書店を通して購入するスキームをつくったのも深夫さんらの発案だ。これらのことが、のちに起こった熊本地震でも活かされることになった。

同じ年の5月、忘れられないエピソードがある。

まだ被災地への交通アクセスが制限されるなか、対策本部の有志で、現地視察も兼ねて事前許可をもらった避難所を巡る、図書寄贈のワンボックスカーに乗り込むことになった。深夫さんは最初の宿泊地・仙台に新幹線で夕刻合流することになっていた。その時深夫さんは、

「車で来たみんなには、慰労の席を設けてあるから。飲食で被災地支援しよう」ということになった。

「地元の書店さんに訊いておしい店を予約したからさ」というのである。早朝の荷造りから丸一日かけた旅程の締めくくりに期待している状況だ。地元支援は郷土料理と思うのが普通である。だがしかし、深夫さんが連れて行ってくれたお店は、東京でも味わえる会席料理のお店だったのだ。

「いやー、オレも途中でちょっと考えてたのちがうなあとは思ったんだけど、おいしいからいいじゃない。次、次は牡蠣か牛タンを腹一杯食べよう。特に牡蠣はうまい店、知っているからさ」

最初からそうしてよ。翌日、「運転得意だからさ、代わってあげるよ」という。仙台から南三陸・気仙沼を抜けて大船渡へ向かう行程だ。いやいや、このメンバーでは高齢の部類だし、大丈夫かと案じたが、本当に運転がうまいのである。確かに南三陸から気仙沼間だったと思う。結構、高低差やカーブの多い山間の道だ。ハンドルさばき、アクセセルブレーキワークにムダがない。実にスムーズ。

「若い頃、書店担当で長野県を廻ってたのよ。林道走って夕方訪ねた書店さんが、晩ご飯つくって待っていてくれたりしてさ

あ、楽しかったな」そして、その本屋さんはいまはもうないという。ちよつと寂しげだった。

深夫さんはこのあとしばらくして、大阪屋の社長に就任する(2014年)。もちろん(大震災)出版対策本部からは離れ版元から取次会社へ。出版流通改革の大役を担うことになった。図書寄贈の集積地とした栗田と、再編で繋がるのも不思議な縁だ。そして再編された大阪屋栗田が2016年に楽天ブックスネットワークとなり、ミッションを全うした。私には、その間の苦労はうかがい知れない。

その後講談社の関連会社の顧問になって、身軽になった深夫さんは、

「大学時代を過ごした京都とこつちで一週間で半分ずつ暮らすんだ」と、快活に話していた。そしてそれをそのまま実行して満喫されていたんだと思う。音羽に来ることが少なくなっても、行きつけの居酒屋が一緒、ゴルフ帰りの高坂の打ち上げ場所も一緒なので、偶に会うことがあった。

「ノブちゃん、元気が」タバコを啜えて、ニコッとする深夫さんがいた。

(日本雑誌協会専務理事)

大竹深夫さんは本年5月16日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

# 出版平和堂第54回 出版功労者顕彰会 新顕彰者四氏が決まる

去る7月29日(金)、出版クラブビル3Fホールにて、「出版平和堂委員会」が開催され、次の四氏を出版功労者として新たに顕彰することを決定した。

(版元関係)

大高 利夫(日外アソシエーツ)

代表取締役(創業者)

井上 瑩子(井上書院代表取締役)

(書店関係)

丸岡 義博(廣文館書店代表取締役)

村田 耕平(三宮ブックス社長)

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

なお、第54回出版功労者顕彰会(は10月7日(金)正午より、箱根・出版平和堂で執りおこなわれるが、新型コロナウイルスの影響により顕彰会が中止となった第52回と第53回の出版功労者も改めて顕彰される予定である。

(第52回)

(版元関係)

宮田 昇(日本ユニ・エージ)

藤原 一晃(白水社社長)

渡邊 隆男(二玄社社長(創業者))

宮部 高志(斯文書院社長)

(第53回)

(版元関係)

志村 幸雄(工業調査会社長)

入江 務(星雲社取締役(創業者))

秋田 貞美(秋田書店社長)

田区麴町5-7-2

(TEL・FAXは従来通り)

実業之日本社(大阪本社) 東京都港区南青山6-6-22

少年画報社(東京本社) 東京都千代田区西神田2-8-5

辰巳出版(東京本社) 東京都文京区本郷1-33-13 春日町ビル5F

TEL 03(5931) 5920

FAX 03(6386) 3087

千倉書房(東京本社) 東京都中央区京橋3-7-1 相互館110

TEL 03(3528) 6901

FAX 03(3528) 6905

二宮書店(東京本社) 東京都千代田区内神田1-13-13 山川

出版ビル5F

(TEL・FAXは従来通り)

日本実業出版社(大阪本社) 東京都千代田区西神田2-8-5

安土町3-3-19 田村駒ビル

TEL 06(6262) 5165

FAX 06(6262) 5172

日本文芸社(東京本社) 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パ

レスサイドビル8F

TEL 03(5224) 6460

FAX 03(3240) 6305

富士経済グループ本社(東京本社) 東京都中央区日本橋3-9-1

TEL 03(3528) 6901

FAX 03(3528) 6905

二宮書店(東京本社) 東京都千代田区内神田1-13-13 山川

出版ビル5F

石川 晴彦(主婦の友社社長)

山本泰四郎(彰国社社長)

(取次関係)

遠藤永七郎(栗田出版販売社長)

(書店関係)

谷口 光正(愛知県教科用図書)

安藤 實(神奈川県教科書販売社長)

奥村 弘志(南天堂書房代表取締役)

萬田 貴久(万田商事オリオン書房社長)

(いずれも歿年順・敬称略)

出版ビル5F

(TEL・FAXは従来通り)

日本実業出版社(大阪本社) 東京都千代田区西神田2-8-5

安土町3-3-19 田村駒ビル

TEL 06(6262) 5165

FAX 06(6262) 5172

日本文芸社(東京本社) 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パ

レスサイドビル8F

TEL 03(5224) 6460

FAX 03(3240) 6305

富士経済グループ本社(東京本社) 東京都中央区日本橋3-9-1

TEL 03(3528) 6901

FAX 03(3528) 6905

二宮書店(東京本社) 東京都千代田区内神田1-13-13 山川

出版ビル5F

(TEL・FAXは従来通り)

日本実業出版社(大阪本社) 東京都千代田区西神田2-8-5

安土町3-3-19 田村駒ビル

TEL 06(6262) 5165

FAX 06(6262) 5172

日本文芸社(東京本社) 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パ

レスサイドビル8F

TEL 03(5224) 6460

FAX 03(3240) 6305

## 出版平和堂



問い合わせ：一般財団法人日本出版クラブ

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル5F

TEL 03(5577) 1771

https://www.shuppan-heiwado.jp/



# 日本出版クラブ 理事会・評議員会開催 — 新しい役員と委員の顔ぶれ決まる —

一般財団法人日本出版クラブの理事会及び評議員会が、6月3日と6月28日に開催され、2021年度の事業報告・決算報告・公益目的支出計画実施報告が承認された。また、今年役員並びに委員の改選期にあたり、会長1名、副会長2名、専務理事1名、常任理事9名、理事22名、事業運営委員11名(うち委員長1名、副委員長2名)、総務委員13名(うち委員長1名、副委員長2名)、出版平和堂委員13名(うち委員長1名、副委員長3名)、同特別委員11名が選出された。

(◎印は新任、敬称略)

会長 野間 省伸(講談社)  
副会長 小野寺 優(河出書房新社)  
堀内 丸惠(集英社)  
専務理事 横川 裕史(日本出版クラブ)  
常任理事 石崎 孟(マガジンハウス)  
相賀 昌宏(小学館)  
大坪 嘉春(税務経理協会)  
金原 優(医学書院)  
近藤 敏貴(トーハン)  
下中 直人(平凡社)  
鈴木 一行(大修館書店)

常任理事 平林 彰(日本出版販売)  
宮原 博昭(学研ホールディングス)  
理事 生駒 大吾(旺文社)  
◎石田 哲哉(グイモンド社)  
◎市村 友一(朝日新聞出版)  
今村 正樹(成成社)  
◎江草 貞治(有斐閣)  
及川 清(賢堂)  
大橋 一弘(博文館新社)  
岡本 明剛(増進堂受験研究社)  
斎藤 健司(金の星社)  
坂本 政謙(岩波書店)  
佐藤 隆信(新潮社)  
武田真士(博文社)  
筑紫 恒男(建帛社)  
千葉 均(ホプラ社)  
中部 嘉人(文藝春秋)  
納屋 嘉人(淡交社)  
成瀬 雅人(原書房)  
村上 和夫(オーム社)  
村川 忍(KADOKAWA)  
矢崎 謙三(主婦の友社)  
矢部 敬一(創元社)  
◎渡辺能理夫(東京書籍)

代表者変更による評議員一部改選  
評議員◎安部 順一(中央公論新社)  
◎能登 健(みずさ書房)

△事業運営委員会▽  
委員長◎千倉 成示(千倉書房)  
副委員長 今村 正樹(成成社)  
委員 金原 優(医学書院)  
飯塚 尚彦(産業図書)  
大橋 一弘(博文館新社)  
坂本 政謙(岩波書店)

委員 千葉 均(ホプラ社)  
辻 浩明(祥伝社)  
阪東 宗文(暮しの手帖社)  
三樹 敏明(治書院)  
矢部 敬一(創元社)

△総務委員会▽  
委員長 鈴木 一行(大修館書店)  
副委員長◎宮原 博昭(学研ホールディングス)  
◎山本 憲央(仁義塾茶屋)  
委員◎市村 友一(朝日新聞出版)  
◎内田 真介(ヘレ出版)  
江草 貞治(有斐閣)  
大坪 嘉春(税務経理協会)  
下中 直人(平凡社)  
筑紫 恒男(建帛社)  
杉田 啓三(ミネルヴァ書房)  
土井 二郎(築地書館)  
成瀬 雅人(原書房)  
森田 猛(緑書房)

△出版平和堂委員会▽  
委員長 大坪 嘉春(税務経理協会)

副委員長 下中 直人(平凡社)  
筑紫 恒男(建帛社)  
風間 敬子(風間書房)  
江草 貞治(有斐閣)  
大橋 一弘(博文館新社)  
金原 優(医学書院)  
千倉 成示(千倉書房)  
成瀬 雅人(原書房)  
南條 光章(共立出版)  
牧瀬 充典(文化産業信用組合)  
吉野 和浩(裳華房)  
横川 裕史(日本出版クラブ)  
◎小林 則一(教科書協会)  
◎朝倉 誠造(自然科学書協会)  
平川 恵一(出版梓会)  
野上 秀夫(出版企業年金基金)  
渡邊 恭明(出版健康保険組合)  
大江 秀昌(全国教科書供給協会)  
鈴木 宣幸(日本雑誌協会)  
松尾 靖(日本出版取次協会)  
樋口 清一(日本書籍出版協会)  
石井 和之(日本書商組合連合会)  
廣瀬 正(文化産業信用組合)

・2021年度事業報告書より  
新型コロナウイルスの影響により、恒例事業である「第60回全出版人大会」は規模を縮小しての開催、「出版平和堂 第53回 出版功労者顕彰会」と「2022 出版関係新年名刺交換会」は開催中止となった。しかしながら、感染症予防を最大の目的として、出版クラブビル内の換気・消毒・除菌とソーシャルディスタンスの保持を徹底した結果、ホール・会議室の利用者数は徐々に回復しつつある。そのような状況下、クラブライブラリーでは企画展を積極的に開催するとともに、ホームページ上にライブラリーを紹介するVR動画やWeb展覧会をアップした。また「第69回 読書のめぐみ運動」では、例年通り全国の矯正施設と首都圏・関西圏の児童福祉施設に1万7000冊以上の図書寄贈をおこなったことができた。

## 出版記念会

喜びを分かち合える出版人のホールでお祝いの会を。

★会報「出版クラブだより」にてご紹介して、祝賀申しあげます。



## 受賞祝賀会

受賞の栄誉に輝く喜びを祝賀する集いに、出版クラブホールを。

★ご案内状の作成、印刷、宛名書き、贈呈記念品、花束など、お手伝いのむきもお申しつけ下さい

●ご予約・お問い合わせ

出版クラブホール

Tel 03(5577)1511 千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル

# 出版 歳時記

▽七月、我が家では奇跡(？)の紫陽花が葉を広げようとしている。

折り採って花瓶にないれ、そのまま枯れたとおもっていた紫陽花のひとつと茎に生気が兆しはじめたのである。こんなことってあるのだろうか。園芸家は「奇跡なんて大げさな」というかもしれないが、生たたただだ驚くばかりである。▽いつもの散歩道で「どうぞおもちください」という立て札の言葉にあまえ、花をつけた三〇センチほどの額紫陽花のひとつと茎を折りとって家に持ち帰った。それが昨年の紫陽花の季節のことだからもう一年以上になる。さすがに花は枯れて額の部分はドライフラワーと化した。しかし、その形は保っている。しかし、数枚ほどあった葉は一枚、二枚と落ち、最後の一枚もひと月ほど前に黄変して落ちてしまった。

## 枯れ木に花が咲く、か

こい生きていた。この枯れ葉は折り採った部分から白い産毛のような根を伸ばし始め、一年後の今は一〇センチほどのふさふさとした見事な根になっているのだ。その必死の働きだろう、半年ほど前から葉の付け根のあたりにムカゴのようにぼつんと緑の玉があらわれた。どうやら若葉の塊らしい。それがいまでは親指の先ほどの大きさになり、形状も若い葉のつぼみである。

▽「食虫植物 進化の迷宮をゆく」(福島健児 岩波科学ライブラリー)を読む。書店店頭で見かけて気になっていたのだが、新聞書評でとりあげられていたのに押されて購入したのである。書評には新刊情報のほか

に購入後押しの意味もあるのだ。四一センチの補虫袋をもつ世界最大のオウツボカズラには蜜をもとめてネズミがあつまってくるが、どうやらこれは採って食おうというわけではなくネズミが排泄する糞尿が目的らしい。食虫植物は植物が本来もっていた機能を巧みに進化させた結果で、生命体が光合成を獲得して以来、種をつなごうとする植物の進化のしたたかさに驚かされる。そして我が家の奇跡の紫陽花にも。植物恐るべし。▽そういえば〇・ヘンリーに「最後の葉」という短編がありましたね。我が家の紫陽花はこの先果たして再び花を付けるところまでゆくかどうか怪しいが、幼すぎる若葉だろうか。日当たりは足りているだろうか、いやいやベランダでは強すぎる、この酷暑ではクラーの効いている室内がないのではないか、水に腐りはしないだろうか。ジジババは今「がんばれ、がんばれ」と必死なのである。(老書生)

# 編集雑記

☆酷暑の夏でした。東京では猛暑日の日数が過去最高記録を更新しました。偏西風が蛇行したことが主な要因だとか。一方で北日本を中心に豪雨。各地で一カ月の降水量が過去最高を記録しました。被災された方々にお見舞い申し上げます。

☆新型コロナウイルスの第七波はなかなか収まらず、新規感染者数が過去最高を更新し続けています。過去

最高、だらけです。行動制限が解除された4月に、ホール・会議室のご利用が増え、今年度は順調なスタートが切れたものの、ここにかけて稼働率が下がっています。昨年度分の事業復活支援金の支給で一息付きましたが、早く収まることを祈るばかりです。

☆7月にテナント各社、各法人の方々に参加いただいた、消防訓練を行いました。消火器とAEDの使い方も学びました。使わな

(横)

**出版クラブホール・会議室は神保町に移転して間もなく5年目を迎えます**  
**出版記念会や各種会議・セミナー等皆様のご利用をお待ち申し上げます**

**出版クラブホール・会議室**  
PUBLISHERS CLUB HALL  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32  
出版クラブビル  
TEL 03-5577-1511/FAX 03-5577-1772  
<https://shuppan-club-hall.jp/>  
神保町駅(東京メトロ半蔵門線、都営新宿線・三田線)  
A5 出口より徒歩2分



発行所 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32-1 一般財団法人 日本出版クラブ TEL 〇三(五五七七)一七七一(代) FAX 〇三(五五七七)一七七二 発行人 横川裕史 印刷所 上毛印刷(株) 頒価 一百円